

# 八尾歴史物語

九巻

河内名所図会を訪ねて その3 (顕証寺) (けんしょうじ)

河内名所図会  
は、山麓の古墳だ  
けでなく、市内の  
あちこちの寺院を  
紹介していまし  
た。久宝寺寺内町  
の中核寺院である  
「顕証寺」も詳し  
く描かれていまし  
た。



名所図会に描かれていた顕証寺の伽藍と現在見る事ができる建物を比較してみました。

伽藍の中央には、東向きの本堂があり、その後ろに庫裏があります。外側正面には表門と両脇の築地塀、北側には長屋門と東西に長屋が続きます。そして、本堂と長屋を結ぶ渡廊があります。これらは、ほとんど現在の姿と変わりません。近年、長屋門と東西の長屋、渡廊は、江戸時代の姿に修理されています。

一方で、残っていない建物もあります。長屋門から続く北東隅の太鼓楼、その南側の茶所という建物はありません。南西隅

には西本願寺から移された合月亭という茶室がありました。また、本堂南側の渡り廊下の先には、大玄関のある入母屋造りの建物が見えます。この建物は、近年まで本堂の南横にあつた対面所と考え

られます。ただ、名所図会の建物は、写真に残る対面所ほど大きく描かれていません。むしろ、南北の渡り廊下が実際よりも長く誇張して描かれています。

宝永4年(1707年)の大地震で倒壊した本堂は、正徳6年(1716年)に再建されました。この建物が現在の本堂にあたります。近年の調査で棟札の年代が明らかになった表門は、寛政元年(1789年)の建築で、伽藍再建の最終の建物だったと考えられます。享和元年(1801年)刊行の名所図会は、顕証寺の再建が完了した伽藍の姿を描いていたのです。